

伊豆市議会議員 市政報告 小長谷順二 通信

第28号 令和2年1月



小長谷順二 後援会事務所
伊豆市土肥 450-7
TEL/FAX 0558-98-0400
http://konagayajunji.web.fc2.com/
Email photo-ko@yc5.so-net.ne.jp

facebook

小長谷順二 検索

明けましておめでとうございます。

皆様にはお健やかに新年をお迎えのことと、心よりお慶び申し上げます。また平素より議員活動に温かいご支援、ご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

いよいよこの夏、東京 2020 オリンピック・パラリンピック大会が開会します。伊豆市では自転車競技が開催され、世界中から多くの人々が訪れます。オリンピック開催をきっかけに、スポーツはもとより、観光、文化や教育など様々な分野で「オリンピックレガシー」の構築をオール伊豆で取り組んでいけたらと思っています。

本年も変わらぬご支援とご協力をお願い申し上げますと共に、皆様にとりまして実り豊かな年となりますようお祈り申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。



令和元年 伊豆市一般会計補正予算(第6回)

防災機能を備えた公園調査検討業務委託	410 万円
湯の国会館 湯湯ポンプ購入費	99 万円
天城地区同報無線接続工事費	1,610 万円
国土強靱化計画策定業務委託	850 万円
中伊豆温水プール天井部材落下防止工事	480 万円
ふるさと伊豆市応援基金積立金	1 億 5,000 万円
林道整備事業	840 万円
台風 15 号関連災害復旧費	1 億 1,360 万円

主要農産物の種子生産に関わる県条例制定等の対応を求める意見書

平成 30 年 4 月 1 日、主要農産物種子法が廃止されました。種子法廃止法案の可決にあたっては、種子法が主要農作物種子の国内自給及び食糧安全保障に多大な貢献をしてきたことに鑑み、優良な種子の流通確保や引き続き都道府県が種子生産等に取り組むための財源措置のほか、特定企業による種子の独占防止などについて、万全を期すことを求める付帯決議がなされています。

静岡県においては、今後も現行の種子生産体制及び普及体制を維持し、米・麦・大豆はもとより、本県の農業の主要農作物、そして伊豆市の主要農作物でもある「わさび」他の生産に関しても、優良な種子の安定供給や品質確保の取り組みに影響を及ぼすことのないよう、又、農業者や消費者に不安を生じさせないよう、主要農作物の種子生産に関わる条例を制定するなど、必要な対応をとることを強く要望する意見書を伊豆市議会として川勝平太静岡県知事に提出しました。



世界農業遺産 中伊豆筏場わさび田

令和元年 伊豆市一般会計補正予算(第7回)

台風 19 号災害復旧費

道路橋梁災害復旧費	7 億 4,190 万円
農地・農業施設災害復旧費	2 億 7,040 万円
林業施設・河川災害復旧費	2,420 万円
天城中学校体育館災害復旧費	2 億 4,442 万円
修善寺グランド災害復旧費	411 万円
年川処分場災害復旧費	797 万円
修善寺農村環境改善センター災害復旧費	221 万円

伊豆市民が共にあゆむ手話言語条例制定

障がい者週間である 12 月 5 日、静岡県下初の議員発議で「伊豆市民が共にあゆむ手話言語条例」が伊豆市議会 12 月定例会において全会一致で可決しました。

ろう者は、意思疎通を図り、お互いの気持ちを理解し合うために、必要な言語として手話を大切に育み、受け継いできました。しかし長年にわたり手話を言語として使用することができる環境が十分に整えられてこなかったためにろう者は、必要な情報を得ることや周囲との意思疎通を図ることに困難を強いられ、多くの不便や不安を感じながら生活してきましたが、平成 23 年に障害者基本法が改正され、手話が言語として位置付けられました。

伊豆市は、手話が言語であるという認識に基づき、協働の精神をもって、手話の理解に努め、市民がお互いを尊重し、夢と希望を抱き、心豊かに共生することができる地域社会を目指すため、この条例を制定しました。



条例制定後関係者と一緒に写真撮影

小長谷順二の一般質問（12月定例会 令和元年12月3日）

1. 台風19号被害検証と今後の防災・減災対策

Q

政府は台風19号による被害を激甚災害と大規模災害復興法に基づく「非常災害」に指定しました。台風による伊豆市の災害復旧費は道路、農地等12月時点で16億円に迫っています。

狩野川台風を上回る総降水量778mmの大雨（湯ヶ島雨量観測所）で、市内外で起こった台風被害を検証し今後の防災・減災対策に結びつける取り組みについて伺います。

A

行政として、避難所のあり方、情報発信手段、災害警戒本部の体制など自ら見直さなければならぬ点や、伊豆の国市、函南町で大変苦慮された災害廃棄物の受け入れ場所の確保など多くの課題を再認識いたしました。今後はこれらの課題を一気には直せませんが一つ一つクリアしていく必要があります。河川の氾濫を防ぐ対策としては、川幅を広げる事や川底を掘り下げる事、堤防を築くなど河川の断面積を大きくすることが考えられますが、短期間的には樹木の伐採や河川の浚渫になりますので、次年度以降も国や県に要望して参ります。

意見

初の大雨特別警報の発令で1,879名の避難者を受け入れた避難所運営には多くの課題が浮き彫りになりました。また幸いにして堤防の決壊等による水害は発生しなかったわけですが、バックウォーター現象等による内水被害にも備えなければなりませんし、災害ごみの迅速な処理に対応するための施策や、避難所等の職員の配置と人員不足による混乱を解消するために地域住民とどのように連携していくのかなどを検討し、地域協働による防災・減災対策に努めていただきたい。



市道月ヶ瀬吉奈線崩落

2. がん検診の現状と対策

Q

がん検診は自覚症状が無い時点で行われることから、がんが進行していない状態で発見することが出来ます。がんが不治の病と言われたのは昔の事で、現在では早期発見、早期治療でその多くが完治すると言われていたので、がん検診事業の現状と受診率向上の取り組み、そして市内小中学校でのがん教育について伺います。

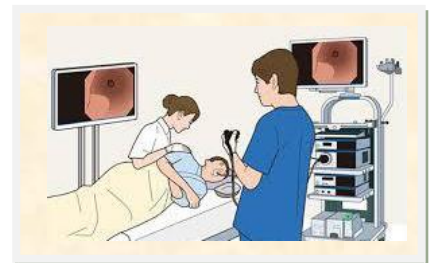
A

受診率の過去3年間の推移は横ばいの状況で、受診率向上の取り組みについては、金融機関や企業と「がん検診普及啓発及び受診率向上」や「健康づくり」に関する協定を締結しています。

がん教育の取り組みとしては、令和2年度から小学5・6年生が、保健の授業において「生活習慣病の予防」を学習します。また中学校においては令和3年度から、「がんは異常な細胞であるがん細胞が増殖する疾病であり、その要因には、不適切な生活習慣をはじめ様々なものがあることを理解できるようにする。また、がんの予防には生活習慣病の予防と同様に、適切な生活習慣を身につけることなどが有効であることを理解できるようにする。」との新学習指導要領に沿って、がん予防の大切さを学んでいきます。

意見

静岡県は2016年の「お達者度」を公表しました。男女ともに伊豆市は比較的長い水準を維持しました。政府は「地域の健康努力」徹底への予算案で1,500億円程度を計上する方向で検討しているので国の政策に沿って健康増進事業をさらに推進し、がん検診の受診率も県下でトップを目指し「健康のまち伊豆市」をアピール出来たらと考えています。



第27回

小長谷順二 市政報告会開催
令和2年1月20日(月)PM7時～
伊豆市土肥支所 4F読書室

1月26日(日)、旧土肥小学校お試し活用イベントを開催します。わさび漬け・わさびみそ作り教室、健康づくりコーナーでの百歳体操（百歳まで元気にすごせる体操）、フィットネス体験、運動器具体験コーナー、測定器具による体力チェック、休憩サロンや軽トラ市等を行う予定です。公共施設の有効活用と地域の賑わいや健康寿命の延伸につながる取り組みですので是非参加してください。